

日時 平成 29 年 7 月 24 日 (月) 13:30~16:30
テーマ チームかってなんですか？校内連携・移行支援の処方箋
～連続性のある支援を目指して～
講師 東京都立水元特別支援学校 主幹教諭 日高 浩一 氏



夏休みに入って初めての公開講座は、「チームかってなんですか？校内連携・移行支援の処方箋」と題して、SSC で開催しました。小中高등학교、特別支援学校から 31 名が受講しました。

講師は東京都立水元特別支援学校主幹教諭で特別支援教育コーディネーターの日高浩一先生です。前半は御自身が専門家チームとしての派遣で巡回相談されている経験より、コーディネーターの役割や外部機関との連携についてお話いただきました。その中でも、「外部との連携が実するには、内部の連携の成否にかかっている」という言葉が心に残りました。それは、校内での役割分担を明確にし、いつでもチームで対応するという事です。合理的配慮や気になる子の支援などのダブルスタンダードにも学校全体で取り組むことが重要です。コーディネーターの役割は、子どもたちに関わる人たちが主体的に力を発揮できるようになっていくための「コンサルテーション」です。また、共生社会においては「自立」とは「支え合いのネットワークの中にあること」であることも述べられました。



後半は、本人を取り巻く支援機関マップ（エコマップ）の作成と、グループに分かれた模擬校内委員会の演習を行いました。エコマップがあると、校内委員会の出席者間の情報共有がスムーズにでき、すぐに協議に入ることができます。校内委員会は情報交換会ではなく、役割を決める場です。今回はグループごとに架空のケース事例を選び、それについて「誰が、何を、いつまでに、どうするか」という具体的な役割分担を決めることがゴールでした。



限られた時間内での校内委員会でいかにスピーディーにゴールを目指すか、その難しさや課題を体験することができました。丁寧にじっくり取り組むことを大切にしてきた教員にとって、効率よくスピーディーに具体的方針を決定することは慣れていない傾向にあります。子どもや保護者のニーズへの早期対応、支援の見直し・調整を行っていくためには、今後ますます必要になってくるスキルだと感じました。

<参加者アンケートより感想> (一部抜粋)

- ・やっぱり学校がやらなければ、という教員の責任を問い直さなければいけないと思った。
- ・教員としての本質を突くお話で非常に心に残った。根本を見る大切さや、表面だけ見て教育しているつもりになってはいけないことを再確認した。
- ・障害を見るのではなく、その子どもが上手くいくためにどうすればいいのかを、学校全体で、保護者と一緒に考えていくことが必要だと感じた。
- ・エコマップの作成では、いかに時間を有効に使って情報共有し方向性を見出すか勉強になった。
- ・今後の校内会議では、誰が、何を、いつまでに、どうするか決めることを意識して行いたい。
- ・エコマップを使っての校内委員会、2 学期から早速チャレンジしてみます！

8 月の公開講座は、事例からみる支援シリーズです。8 月 2 日 (水) は「読み書きに困難のある児童生徒の対応」を舞鶴支援学校で、8 月 21 日 (月) は「発達障害のある児童生徒の不登校」を SSC で行います。